

デジタルメディア・映像機器

近年、国、企業、消費者それぞれのレベルでエコロジーへの関心が高まる中、日立グループは、むだを排除した暮らしやすい社会の実現に向けて提案を行っている。薄型テレビ分野では、高画質化に加え、光学・信号処理技術を駆使し、さらなる省エネルギー化を進め、液晶プロジェクタ分野では、省スペース化をめざした超短投写モデルを業界に先駆けて投入する一方、インタラクティブ性能を高めたモデルに注力している。



1 デジタルハイビジョン液晶テレビ「S-LED Wooo」L46-S08

1 デジタルハイビジョン液晶テレビ 「S-LED Wooo」L46-S08

「S-LED^{※1)}」を搭載し、高画質化と省エネルギー性を実現したデジタルハイビジョン液晶テレビ「S-LED Wooo」L46-S08を発売した。

(1) S-LEDは、独自のエリアコントロールアルゴリズムなどにより映像の輝度信号を分析し、ブロックごとの発光が最適照度となるようバックライトを制御する。暗部は黒く、明部は高輝度を維持し、高コントラスト・高階調な画質を実現する。

(2) S-LEDは発光部分を映像に応じて制御することで高画質を実現し、電力をむだなく活用する。また、S-LEDのバックライト発光制御を応用し、画面表示サイズを通常の46V型から32V型もしくは20V型相当に縮小して表示することで、電力消費を低減する「節電小画面」を新採用した。32V型相当で約9%^{※2)}、20V型相当で約26%^{※2)}の消費電力低減が可能である。

(3) 内部構造材である金属フレームを美しく仕上げ、外装として採用した。金属フレームやスタンドにはアルミを採用し、ヘアライン処理やサンドブラスト処理、さらにダイヤモンドカットを施すことでアルミが持つ金属の上質な質感を表現した。(日立コンシューマエレクトロニクス株式会社)

(発売時期：2011年11月)

※1) スリムブロックLED (Light-emitting Diode) パネル
※2) 全白映像表示で測定。46V型表示時との比較において。

2 インタラクティブ機能内蔵 超短投写距離プロジェクタ 「iPJ-AW250N」

スマートフォンなどの普及もあり、画面上でのタッチ操作やインタラクティブ性がビジネスや教育の現場でより身近になっている。

今回、プロジェクタから投写した画面上で直接、付属の電子ペンを用いて文字や図形の手書き入力やPC操作を行ったり、書き加えた画面をPCに保存したりすることができるインタラクティブ機能内蔵超短投写距離プロジェクタ「iPJ-AW250N」を発売した。

壁や黒板など投写できる平面さえあれば、少ない導入コストでインタラクティブホワイトボードとして機能する。投写画面上での動きのあるプレゼンテーションにより、会議や授業などで聞き手の理解を深めることができる。また、付属のソフトウェアで、豊富な教育向け素材や文字認識などの充実した機能を使用できるようにした。

(日立コンシューマエレクトロニクス株式会社)
(海外発売時期：2011年4月)



2 インタラクティブ機能内蔵超短投写距離プロジェクタ
「iPJ-AW250N」